

常なる磐

つねなる いわ

令和2年6月12日(金)号

◇ 見て学び、学びを生かして行動する「つながる学び」

学校再開から2週間。

学校に、子供たちの澆漑（はつらつ）とした姿と笑顔、真剣に学ぶ姿、元気な声に戻ってきた。この2週間、我々は、貴重なあたりまえの幸せを実感している。

6月1日、隔日の半日登校から給食ありの全日登校に移行した。学校の本格再開に際し、子供たちの体力的、精神的両面の疲労が心配されたが、なんと第1週は、「欠席者なし」で週を終えた。家庭の支援はもちろんのこと、子供たちが備えるたくましさもあるが、学校生活における前向きな気持ちを支える大きな要因は、学級の友達や先輩、後輩、そして教師の存在といった人的環境であるといえる。

友達との関係を察し、さりげない支援で関係性を高め、行動を促すのが教師の役割であるが、本校は小規模校であるがゆえに「察する」場面を教師がタイムリーに拾い、支援につなげられやすいといえる。それでも、本校の教師は「察し」「支援」の双方がいずれも巧みで、本校の特性を生かした的確な支援により、子供を伸ばし、子供を鍛えている。本当に心強い。

子供の鍛えによる伸長がよく分かるのが、全校児童が一堂に会する場面である。

月曜日に行われる朝会（全校集会）では、入学間もない1年生も無言で入場し、きちんと聞く姿勢を作ることができている。これは、上級生が先に入場し、会の雰囲気を作っていることが大きい。6年生をはじめとする上級生は、下級生に範を示すことを意識しており、自身がこれまでの見てきた先輩の姿を求め、見て学んだ経験を肥やしとしながら、立場をわきまえ、すべきことを心得て行動できる。ただし、ここに至るまでの教師のさりげない支援も忘れてはならない。

さらに、体操座りで動かずに座り続けられるのは、日々の教室での担任の指導によるところが大きい。正しく美しい座り方に、日常の教師の指導が見て取れる。

身体測定では、学年を分散させた班を作り、班ごとに検査を行う。上級生が前後で下級生を挟んだ形での移動は通学団と同じで、上級生は下級生を気遣い、下級生は上級生の指示にしっかり従う。

先輩の指示を聞いて1・2年生が頑張ろうとしている姿は微笑ましい。中学年の3・4年生は、上級生の様子をしっかりと目に焼き付けて上級生になるための準備。そして、まさに後輩をけん引する5・6年生は、本当に頼もしい。

こうして本校は、小規模校の特性を生かして教師が関わりを演出し、様々な関わり合いを通した「つながる学び」により、子供たち自身で学び続けている。